

## 2015年1月13日～20日の阿蘇火山噴出物構成粒子の特徴

阿蘇中岳から1月13日～20日にかけて噴出した火山灰試料は、1月13～16日の火山灰には引き伸ばされた形状を持つ褐色ガラス質粒子が多量に含まれていたが、16～20日の火山灰はブロック状に破断したガラス粒子が大半を占める。

気象庁より提供された2015年1月13～20日の阿蘇中岳の構成粒子を観察した。1月13日～16日に山上局舎および山上監視所にて回収された火山灰には、引き伸ばされた形状を持つ褐色ガラス質粒子が多量(>50%)に含まれる(図1左)。そのほか、黒色不透明ガラス質粒子が約30%含まれる。褐色ガラス質粒子はいずれもよく発泡しており、かつそのほとんどが熔融状態で引き伸ばされた形状を保っている(図1右)。

1月16日～18日にかけて堆積したと考えられる火山灰は、褐色ガラス質粒子(～40%)および黒色半透明～不透明ガラス質粒子(～40%)から構成される(図2左)。ガラス質粒子は破断面で囲まれた角ばった形状をしめす(図2右)。

1月19日～20日にかけて堆積したと考えられる火山灰は、褐色ガラス質粒子(～50%)および黒色半透明～不透明ガラス質粒子(～40%)から構成される(図3左)。16-18日火山灰に比べ、褐色ガラス質粒子の発泡度がやや高い。



図1. 1月13日～16日に山上局舎付近にて採取された火山灰粒子。図1左

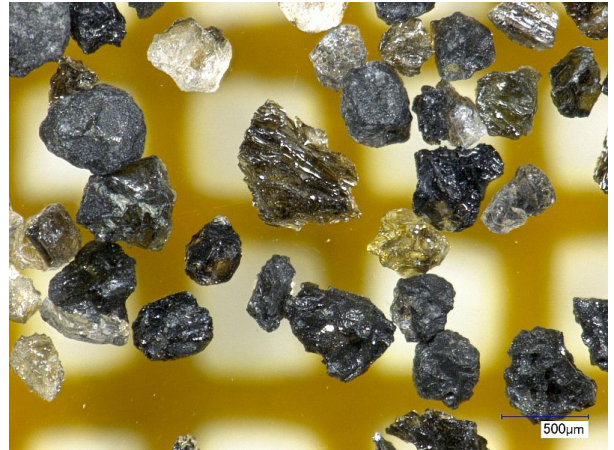
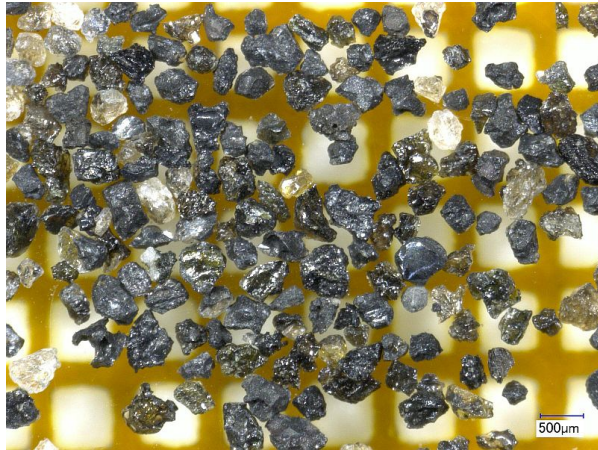


図2 1月16日～18日20時に山上監視所付近のトラップにて採取された火山灰.

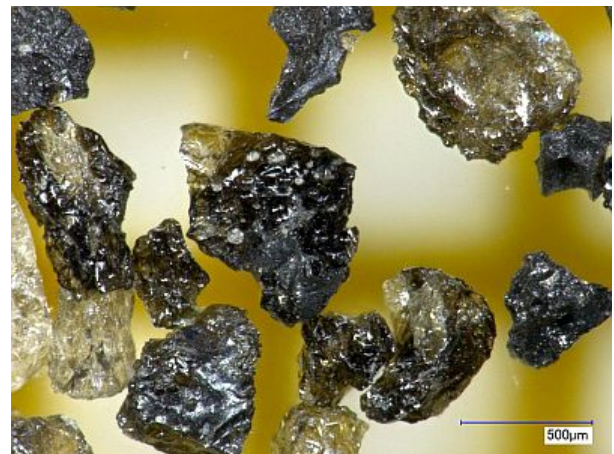
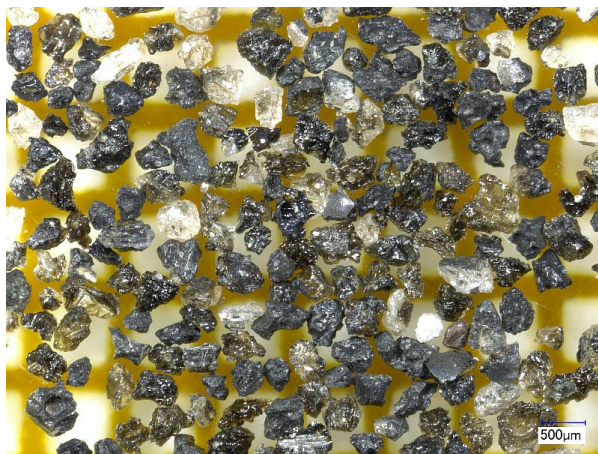


図3 19日8時～20日にかけて山上監視所付近のトラップにて採取された火山灰.